おんがく広場 第137号
令和3年(2021) 7月21日(水)
発行・クッキー会 発行責任者・加藤良一
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい 令和2年(2020)4月10日創刊 連絡先 rkato@max.hi-ho.ne.jp

正しい情報で音楽活動を

怖いのはウイルスより間違った情報の蔓延

ウイルス専門家**西村秀一**著『**もうだまされない 新型コロナの大誤解**』は、未知の新型コロナウイルス感染症に対して、ほとんど意味のない対策が闇雲にとられていることに警鐘を鳴らしています。「怖いのはウイルスよりも間違った情報の蔓延」と言い切ります。

西村氏は、現在国立病院機構仙台医療センター臨床研究部ウイルスセンター長、専門は呼吸器系ウイルス感染症、とくにインフルエンザウイルス。山形大学医学部卒、同大細菌学教室を経て米国CDCで研究に従事後帰国、国立感染症研究所を経て現職へ。

新型コロナウイルスは、まだ全容が解明されておらず、分からないことだらけです。感染症対策は国によって大きく異なっています。医療が進んでいると思われた我が国においても予想外の脆弱性が曝け出されています。

この本では、本当にやるべき対策は何か、無駄な対策とは何か、過去のインフルエンザやスペイン風邪などの歴史的観点も交え、最新の対策法への評価をし、以下の７項目について分かりやすく解説しています。

★新型コロナは空気感染だと知れ ★手洗いよりうがいのすすめ ★PCR検査をただ増やせば良いという大誤解 ★ウイルスに勝つマスクの達人になる ★こうすれば飲食店も営業できる ★ウイルスと細菌は違います ★新型コロナはいつ終息するのか？

合唱の現場に当てはめるとどうなるか？

覆(くつがえ)される感染対策！

身の回りにはたくさんの種類のウイルスがいます。しかし、「物の表面で人間に病気を起こすウイルスに出会う可能性はほとんどない」、「スーパーの商品やお金、宅配便の段ボール箱、図書館の本…どれもいちいち消毒する必要はない。そこに生きたウイルスがいることを証明した人はいない」、「お札にウイルスがたくさんいるなら、世界中の銀行でクラスターが発生するはず」と断言しています。

私たちが拠りどころとしている全日本合唱連盟のガイドラインでは、練習当日の対策として「椅子、備品の設置後、消毒を行う」、公演当日の対策として「パンフレットやチラシの授受は、不特定多数による接触を避ける」ことを推奨しており、私たちもかなり気を使って周囲の消毒を行っていますが、これもさして意味がないということになります。

ウイルスが皮膚から感染しない理由

一般にウイルスが皮膚から感染しないという、そのウイルス学的根拠は次のようです。

皮膚の一番外側の角質層には、外部からの刺激や病原体の侵入を防いだり、水分が逃げないようにするバリア機能がありますが、この角質層は剥がれ落ちる寸前のほぼ生きていない細胞です。ウイルスは細菌と違い、生きている細胞でしか増殖できないので、皮膚から感染することはないのです。

では、皮膚から感染しなくても、ウイルスがついた手で目や鼻を触ると感染するのではないか、だから手洗いやアルコール消毒を徹底しているのだが、という疑問がわいてきます。しかし、目から感染して肺炎を起こしたという報告例はないと言います。医療現場のような高度の汚染状況が考えられる場所ならいざ知らず、普通の場所では心配する必要がないそうです。

手洗いよりうがいのすすめ！

アルコール消毒は無意味？

感染対策の基本は、つまるところ長時間の**3密回避**と**マスク着用**、感染者との接触も短時間なら恐れることはなく、**手洗いよりうがい**を強くすすめています。

また、マスクの生命線は素材性能と密着性だから、ウレタンマスクは効果がほぼゼロで推奨できない、**不織布マスクが最適**という点では日本合唱連盟や他の団体の推奨と同じです。

さらに、**アルコール消毒は無意味**という点については、現在の世の中のコロナ常識を大きく書き換えないといけない話しになります。その理由は、新型コロナウイルが主に空気感染だと知れば、アルコールで拭うことは意味がないとなるのです。

実際にコンサート会場などで座席をアルコール除菌シートで拭くことがよくありますが、実際に布製の凸凹した材質などの場合、表面をなぞった程度ではほとんど気休めでしかないと思いつつ、言われるまま指示に従って拭いていますが、これなどは形だけでしかないから止めても構わないと思います。逆に、手洗いや机などの水拭きさえすれば、アルコールなど不要だと指摘しています。

▣ ▣ ▣ ウイルスと細菌はちがう ▣ ▣ ▣

この本ではウイルスと細菌はちがうことを正しく理解することを求めています。もちろん専門的なことではなく、常識の範囲でのことと思えばよいのです。ウイルスと細菌を区別しないといろいろと不都合が生じます。個人的にはその典型的なものが**ウイルス菌**という言葉ではないかと思います。ウイルスと菌(細菌)はまったくちがう生物です。もっともウイルスを生物といってよいか迷いますが、混乱の原因として思い当たることはいくつかあります。

例えば、**バイキン**です。バイは黴(カビ)、キンは細菌ですから、バイキンはそれらをひっくるめた俗称で両者を区別していません。そんなことからウイルスに対してもつい菌をくっ付けてしまったのではないかと思いますが、いかがでしょうか。これについては以前、筆者のHPに「ウイルス菌？」として書き残したものがあります↓。

www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/Document/essay/e45uirusukin.htm